第3回 こども園部会 会議報告

日 時:令和7年 7月 29日(火)

午後6時55分～7時50分

場 所:岡谷市役所 603 会議室

○次 第

- 1.開園時期について
2. 幼児期の教育・保育に関する新たな指針の策定について
- 3.交流活動について
- 4.保護者会組織について

○部会で確認した内容

- ①こども園の開園時期について、川岸・成田両園の保護者及び子ども・子育て支援審議会の委員等から意見を聞き、開園時期に関するアンケートを実施。開園時期については、市の中で調整をして、市民への公表は9月中の予定を確認。
- ②保育園整備計画や川岸学園構想を進めるにあたり、幼児期の教育と保育の質を一層向上させ、また「公立の幼保連携型認定こども園」にも適応できる共通の目標を掲げ、一体的な取り組みを進めていく必要があるため、現在の「保育目標」を土台にしながら、新たな指針となる「岡谷市幼児教育・保育指針」を策定予定。部会員から園での幼児教育等の意見を伺った。
- ③交流活動は、現在の進捗状況を確認。
2園交流は、4月から6月まで順調に実施し、9月以降の残り4回の交流も計画的に実施予定。未就園交流は、川岸5地区の未就園交流が好評だったため、11月は川岸・成田保育園の合同交流会を実施予定。園校との交流は、義務教育学校開校時に1年生と6年生になる、現在の年少児と小学3年生との交流を検討中。地域との交流は、11月の2園交流の際に実施をする豚汁会にお世話になっている地域の方を招いて日頃の感謝を伝える予定。
- ④保護者会組織は、現在の川岸・成田両園の保護者会会則について、役員構成、任期、会費、集金方法、主な事業内容、役員選出方法等の内容を確認。

○部会で出された主な意見等

(幼児期の教育・保育に関する新たな指針の策定について)

- ・「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」でいうと、泥だんご作りの遊びの中でも、友だち同士教えあう「協同性」、工夫して作る「思考力の芽生え」、土や砂に触れることでの「豊かな感性と表現」、「自然との関り」、諦めずに作り上げることでの達成感を味わい、「自立心」の育ちにも繋がる。長時間しゃがんで、足腰の力もつき、「健康な心と体」づくりに繋がっている。
- ・幼児教育については、英語や体育などの幼児教育課程を取り入れているが、普段の生活や遊びからも、多くの学びを取り入れて幼児教育を行っている。子どもたちが何に興味があり、どう遊び、学んでいるのか、夢中になっていることなどをピックアップしたものを、ランニングストーリーとして保護者に情報共

有をしている。

- ・「小1プロブレム」への対応など、幼保小の連携を含めて、まだ課題はあるが、その中でも岡谷市は「おかや絹結プログラム」の実践によりうまくいっている部分が多いので、引き続き10の姿を意識しながら小学校と連携していきたい。
- ・異年齢交流では、年長が中心になって行うので、10の姿の「自立心」に繋がり、またトラブルなくみんなで協力をして行うために「共同性」に繋がるなど、一つ一つの遊びや交流の中から幼児期の保育・教育のねらいを意識しながら日々の園生活を行っている。
- ・日々の遊びや生活の中から10の姿を大事にしてきたことから、自主的にゴミ集めのお手伝いができるようになったこともある。また、単にゴミ集めをするだけでなく、友だちと手分けをして協力しておこなったり、ゴミがこぼれないように容器に入れるなど、失敗をしないように工夫している姿は、「思考力の芽生え」に繋がっている。
- ・食育も非常に大事な要素である。日々の園生活の中で食から学ぶことも多々あり、10の姿では、「自然との関り・生命尊重」にも繋がるので、栄養士の立場から保育士、調理員と協力しながら、新たな指針の策定に携わっていきたい。

○次回の部会での検討事項

- ・開園時期の確認、開園までのスケジュール、幼児期の教育・保育に関する新たな指針の策定について

○次回の日程について

- ・令和7年9月頃